



# グリーンポトスニュース

59号：2002年7月

梅雨の鬱陶しい季節が続いていますが、真夏の太陽はもうそこまで来ています。そろそろ夏休みの予定が気になる頃では…。今月の話題は『おたふくかぜ』です。

## おたふくかぜ

おたふくかぜは、ムンプスウイルスが感染することにより起こります。耳の下にある唾液腺である耳下腺が腫れ、おたふくのようなになるため、「おたふくかぜ」と呼ばれております。潜伏期間は2～3週間で、主に3～5歳の幼児が罹ります。30～40%は、症状があまり現れない不顕性感染であることが多いです。

耳下腺の腫脹は、3～7日間みられ、この間は感染性も高く、また、合併症の発生率も高いため、登園登校は、法律により禁止されております。

もっとも恐い合併症として、無菌性髄膜炎があります。発生頻度は2～10%前後で、耳下腺腫脹後3～10日に発生します。そのため、この期間の治療が大切になってきます。症状としては、発熱、頭痛、嘔吐があり、このような症状がみられた場合は、速やかに医療機関に受診してください。入院治療が必要となり、放置しておくとう重篤な経過を示すこともあります。

成人男性の場合、20～35%の発生率で、睾丸炎になることがあります。不妊症の原因となることがありますので、注意が必要です。食事時、疼痛のため、摂食不能になることがあります。これは、唾液腺が腫脹するため、抗炎症剤等の服用が必要です。



おたふくかぜの予防は、予防接種が第一です。多くの場合は、良好な経過をたどりますが、先程述べたように入院治療が必要になる場合もあります。また、耳下腺が腫脹している1週間前後は外出することもできません。旅行などの予定があってもキャンセルしなければなりません。成人の場合は、男女を問わず、発熱腫脹が乳幼児より強いため、体力の消耗が激しいので、幼児期に罹ったかどうか分からない場合は、抗体検査を受けるか、予防接種を受けたほうが良いと思います。最近、子供から両親に感染するケースもあり、注意が必要です。

かめざわクリニックでは、おたふくかぜを含め、予防接種を積極的に行っておりますので、受診してください。